



町会は4年ぶりのおまつり。学校も元気で

桃園

発行：中野区青少年育成桃園地区委員会
広報部

事務局：中野区桃園区民活動センター内

TEL： 03-3382-5411



7月 カヌー体験

多摩川 是政緑地



8月 夏キャンプ

国立那須甲子青少年自然の家



これだけの人数が一緒に出かけて——



一緒に野菜を切って、炒めて、煮て、カレーを作って——



一緒に「このカレーが一番おいしいね」と食べて——



一緒に遊んで楽しんだ3日間でした

暑さを超えて 熱中体験

桃園地区委員会のミニリーダーは、カヌー体験と夏のキャンプを経て、にぎやかに仲良く成長しています。6月に知り合ったばかりのメンバーでの行動ですが、高学年児童は周りに目を配る子も

増えて、少し頼もしくなりました。記録的猛暑だったので、地区委員会育成部スタッフは、感染対策と暑さ対策に集中しました。けがもなく無事に帰れたことが一番です。

駆け込める場所、どこ？

環境部主催 駆け込み体験

桃園地区委員会の環境部は、キッズ・プラザ桃花と中野警察署の協力を得て、8月に座学と駆け込み体験の安全教室を開きました。4月に開いた安全教室に続く取り組みです。

2017年に作り始めた巨大マップは、最初は学校のまわりの道路だけでしたが、毎年「学校↓公園↓信号↓子ども110番の家」と印を書き足してきました。地域内の110番の家にお願いして、駆け込み体験を実現したのは昨年度に続き2回目です。

危険と安心を確かめる

桃花小 地域めぐり

桃花小では11月6日、町会と連携して通学路の安全を確認する「地域めぐり」が行われました。地域活動の時間は6月から定



町会の人説明を受けながら歩く児童たち



6日は一年から6年生までの地域班が町会の方と通学路を歩き、こども110番の場所を見つけたり、細い道の歩き方、事故の危険がある場所を確認したりしました。「こども110番こんなところにあつたんだ」「この道危ないんだよ」などの声が聞かれました。保護者も「危ない通学路や、3カ所ほど工事の所があり、高学年が協力して低学年の子をまとめながら回ったそうです」「お母さんと一緒なら信号なくても渡っていいの？」「質問が……大人の交通安全教室もあってもいいのかな」と認識を新たにしていました。(樽見・小林・前原)



巨大マップに印をつける児童と、中野署から配布された安全グッズ



4年ぶりの氷川例大祭のみこし巡行、桃園地区まつり、各種の大会…
…にぎわいが秋の街を彩りました。



戻ってきた人の輪



谷戸小の運動会は10月28日、谷戸運動公園で開かれました。今年も、元気な子どもたちが一生懸命に頑張っている姿に感動しました。マスクなしの輝く笑顔と真剣な表情が印象的でした。

学校から運動公園まで、低学年のイスは高学年が運んであげていました。保護者サポーターや高学年の児童の協力もあり、無事に児童たちが校舎と谷戸運動公園を行き来できたようです。保護者は学年ごとに入れ替えてでしたが、これも混乱なくスムーズでした。

6年生の係活動が素晴らしく、競技の補助はもちろん保護者へも「前の方は座ってください」など、みんなが楽しめるようしっかりと指示をしていました。

(倉林・清水)



子どもも大人も団結！ 谷戸小の運動会

昨年度の小平奈緒さんに続き、中野中で大型講演会2つ



向かっていけば、力が引き出される
侍ジャパン・栗山英樹前監督

WBC世界一を達成した栗山英樹前監督が9月5日、「体力向上 健康教育 講演会」で中野中を訪れました。桃花小など小中連携3校の6年生も招かれて750人が集まった会場、栗山さんは壇上から降りて「どんな話が聞きたい？」と質問し、刺激的な1時間をプレゼントしてくれました。

栗山前監督のお話 抜粋

●魂に賭けた——ゲンちゃん(2試合目に指を骨折した源田壮亮選手)に、指痛いよね？と何度聞いても痛くないと答えるんだ。なんでそんなに強いのか？と聞くと「僕は選ばれました。僕が日本のためになる！と決めたんです」と言う。この魂に賭けようと思った。ゲンちゃんの背中がチームを強くした。みんな聞いてくれ。これはまずい、うまくいかねえな、というピンチは、自分が変わるチャンスです。

●手紙を書いた——全選手に「あなた自身が侍ジャパンです」と書いた。「あなた自身が中野中学校です」と言われたら、どう？「ちよつと頑張らなきゃ。自分でなんとかしなきゃ」と思うでしょ。不振のムネ(村上宗隆選手)にも届いていた。最後に決めてくれた。

●人は変わる——ショウヘイ(大谷翔平選手)はクリスマスイブも独りでバツティングしていた。「たまには女の子と飲んだりしないの？」「監督、それ、楽しいですか？……彼は努力しているのではない。自分がどうなりたいか、そこに向かっていただけだ。向かっていけばいける。それを証明したのがショウヘイです。誰でも、向かっていけば力が引き出される。今でなくても、1カ月先でも3年先でも。みんなには時間がある。必ず人は、変われます。

尊敬できる人を真似して

上野愛咲美 囲碁女流名人



上：生徒の調べ学習に
感激する上野女流名人



右：囲碁愛あふれる司会
で盛り上げた戸島さん

女流初の囲碁新人王となった上野愛咲美名人が「将来の夢」について10月19日に講演しました。司会は、中学時代に囲碁にはまったという元AKB48の戸島花さん。対談のように楽しく話が進みました。

「上野さんは21歳ですが、何歳からプロになりました？」

「中2でプロ試験に合格して中3からプロになりました。」

口として働いていました。中3でプロ試験を受けると修学旅行に行けないので『中2で合格すればいいんだ』と」

負けた日には、「今日のどこがいけなかったか、どーっと書いておくんです。次も同じ状態なら負けるので。対局中10分以上考えたら集中が切れるから一服するとか、25分勉強したら5分休むとか。50分&10分がいい人もいます。自分には何が合うのか、15分&3分があるのか、いろいろ試してみます」という上野さんは、睡眠も9時間がいいと、自分の集中力が最も高くなる生活を探して実行しているそうです。

強くなるために何がよかったと思いますか？と問われて「憧れの棋士の真似をすることです。チエ・ジョン(崔精)さんという韓国の方が世界戦の前にバナナを食べていたというので真似したら、よかったです。対局の朝に縄跳びを777回跳ぶこともやっています。みなさんも尊敬する人のまねをしてみてください」と締めくくりました。(斎藤)